

堀口豊太 京都市立芸術大学退任記念展

日本という場所

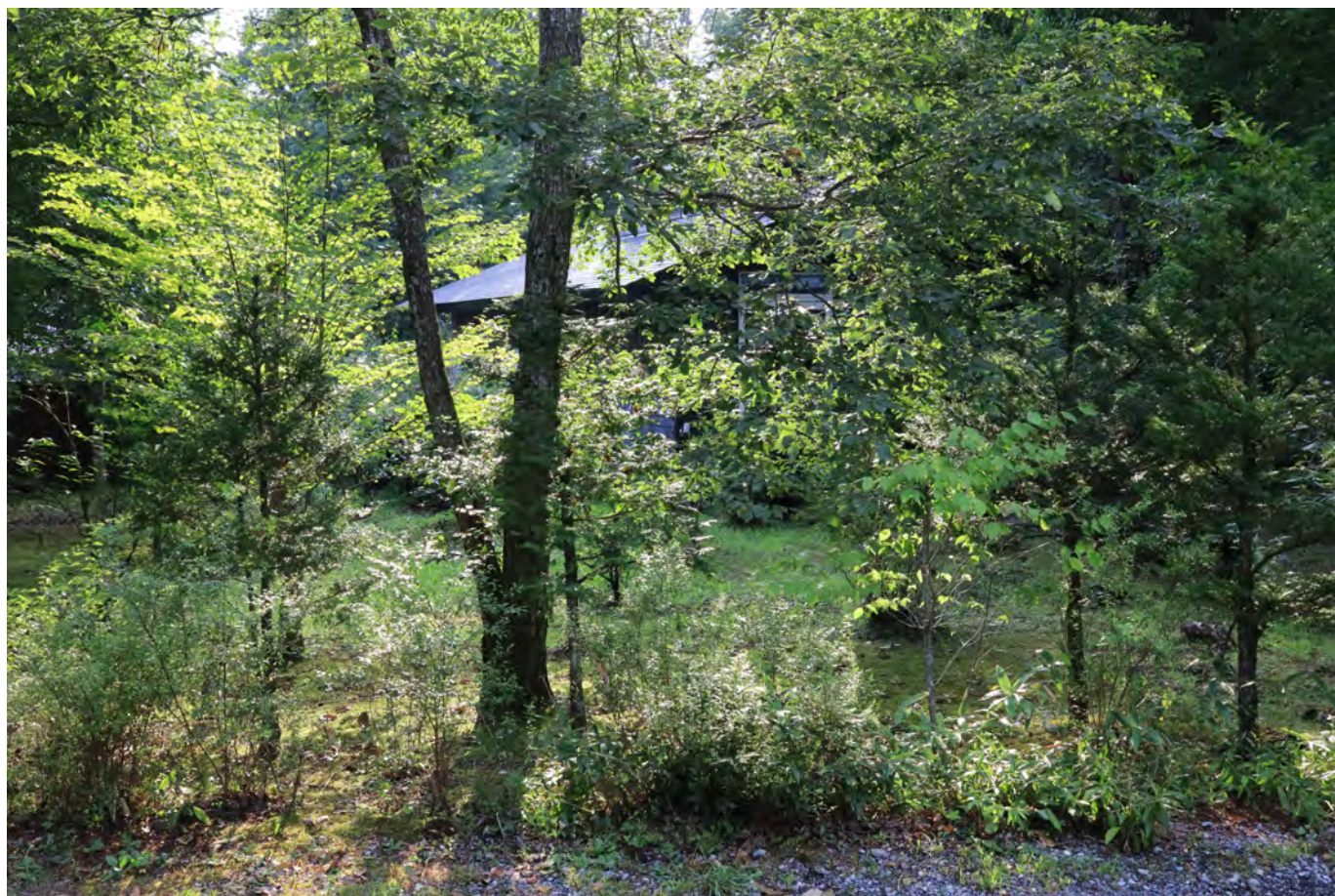
A Place Called Japan

Toyota Horiguchi Retrospective Exhibition

2021年3月27日(土)–4月11日(日) 11:00–19:00 月曜休館 京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA

ギャラリートーク 4月10日(土) 15:00

新型コロナウイルス感染拡大予防のため、予定は変更または中止となる場合がございます。予めご了承ください。



明庵・道から家を見る

環境デザインは、自分をめぐる環境というものを意識し、それをみなのためにどうすれば良くできるのか、という問題について考え提案する領域です。備品、家具、内装、外装、建築、外構、造園、都市、田園、自然などと、規模や範囲は異なっても、それは最終的には公益に向けて個人がどのように貢献できるのか、といったことを探るのを目指しています。それは可能世界に目を向けるものです。

それに対して、写真という芸術は、現実世界に目を向けるものです。此处にこういう物がある、此处にこういう場所がある、ということ自体の不思議と面白さを見せてくれます。世の中を良くしようなどという公益の目的をもたず、私たちが何を見ているのか

一よりの確にいえば、何を見ているようで見ていないのかを示してくれます。興味のないものですら興味深く見せてくれます。

この二つの相反する領域の間を行ったり来たりすることによって、その緊張関係の中から、それぞれの意味が私にとってより明らかになりました。日本という場所がもつ問題も面白さもより明らかになりました。

今回の展覧会を通し、その過程の一部を少しでもみなさまと共有できればと思っています。

堀口豊太

京都市立芸術大学 @KCUA
Kyoto City University of Arts — founded in 1880 —

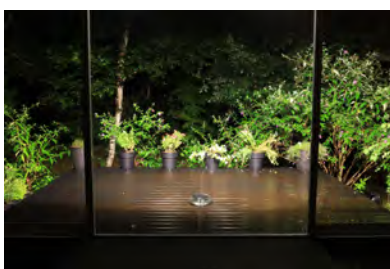
KCUA 140th Anniversary
京都芸大
140th
京都とともに 芸術とともに



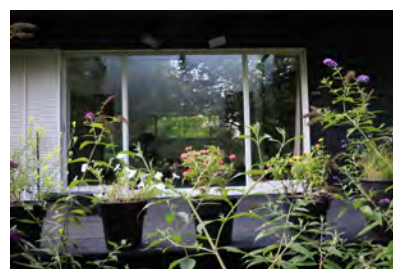
明庵・道から庭を見る



明庵・内から東を見る



明庵・夜に内から南を見る



明庵・庭から北を見る

堀口豊太教授退任記念展に寄せて

堀口先生は、9歳から大学院修了後数年間までをブラジルやアメリカで過ごされました。その長い海外生活での経験を活かし、本学の環境デザインの教育に、大いに影響を与えてくださいました。

作家個人の内的な想いを軸に個性的な作品にするという、日本の戦後の芸術教育の傾向にあって、より大きな観点から思考を巡らせるよう学生たちに問いかけてくださいました。

環境デザインは、建築や内装のような密度と完成度が求められる個人表現のみならず、より大きな環境を考え、創る役目があります。先生は大きな文脈、長い時間の中で築くべき街の景観や、慎重に保全しなければならない自然などについても、指導に努めて来られました。

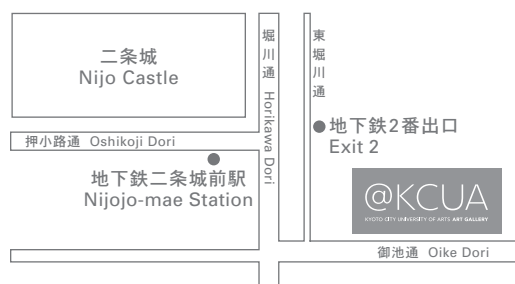
今日まで環境デザイン専攻で、また大学の様々な局面で、組織を支え、教育の主軸となっていたいただいたことに心から感謝しつつ、先生の今後のますますのご活躍を祈念しております。ありがとうございました。

京都市立芸術大学学長 赤松玉女

堀口豊太（ほりぐちとよた）

1955年 東京都生まれ
1979年 イェール大学 Bachelor of Arts
1981年 イェール大学 Master of Architecture
1995年から 京都市立芸術大学美術学部常勤教員

スタジオ80、エスディーエー環境研究所等を経て、京都市立芸術大学に勤務。国内外の大規模開発、林地開発、駅前広場、ショッピング・センター、集合住宅、オフィス、展示場、ホテル、会議場、医院、店舗、飲食店、遊戯場、住宅、別荘等に関わる。担当したのは地域計画、建築計画、外構計画、建築設計、内装設計、造作家具設計等。その傍ら写真、挿絵、装幀なども手掛ける。



604-0052 京都市中京区押小路町238-1

電話 075-253-1509 <http://gallery.kcua.ac.jp>

地下鉄「二条城前」駅（2番出口）南東へ徒歩約3分

バス「堀川御池」バス停下車すぐ

主催 京都市立芸術大学

問合せ先 京都市立芸術大学 事務局 連携推進課 事業推進担当

電話 075-334-2204（平日8:30-17:15）